

『勘と経験』から、 データに基づく 意思決定へ。



10年先も成長し続けるための 「データドリブン経営実践プロジェクト」

専門コンサルタントが
あなたの会社の「現場」に入り、
データに基づく改善の仕組みを
共に構築します。

本事業の3つの特徴

01

現場密着型の伴走支援

経営層だけでなく、工場や店舗等の現場視察、現場社員とのワークショップを通じて、実態に即した課題解決を図ります。

02

支援終了後の自走重視

ツール導入が目的ではなく、支援終了後もデータに基づく改善サイクルを自社で回し続けられる「型」を定着させます。

03

高度なツールは不要

まずは使い慣れたExcelや既存のツール等を用いることにより、より多くの分析～改善～評価のサイクルを繰り返します。



募集概要

対象企業	岡山市内に本社を置く中小企業
支援社数	2社（5社を超える申込があった場合、必要に応じて書面審査を行います。）
応募期間	2026年6月15日(月)～7月15日(水)
費用	無料 ※ソフトウェアライセンス料等の実費は企業負担

こんなお悩みに

- 数字で現場が見えない
- 粗利の流出要因が分からない
- データはあるが活かさない
- 改善が属人的で続かない

まずはセミナー兼事業説明会へご参加ください！



セミナー等の申込・事業詳細はこちら →

■上記以外のアクセス：岡山市HP(<https://www.city.okayama.jp/>)
⇒ページ右上の記事ID検索に「82990」と入力し検索



裏面では、セミナー兼事業説明会と8ヶ月間の支援プロセスをご紹介します。⇒

セミナー兼事業説明会（申込締切：7月3日）

参加
無料

テーマ：『見えない損失』に気づける会社になる

～勤と経験を、利益につながる意思決定に変えるデータドリブン経営～

日時： 2026年7月7日(火)14時00分～16時30分

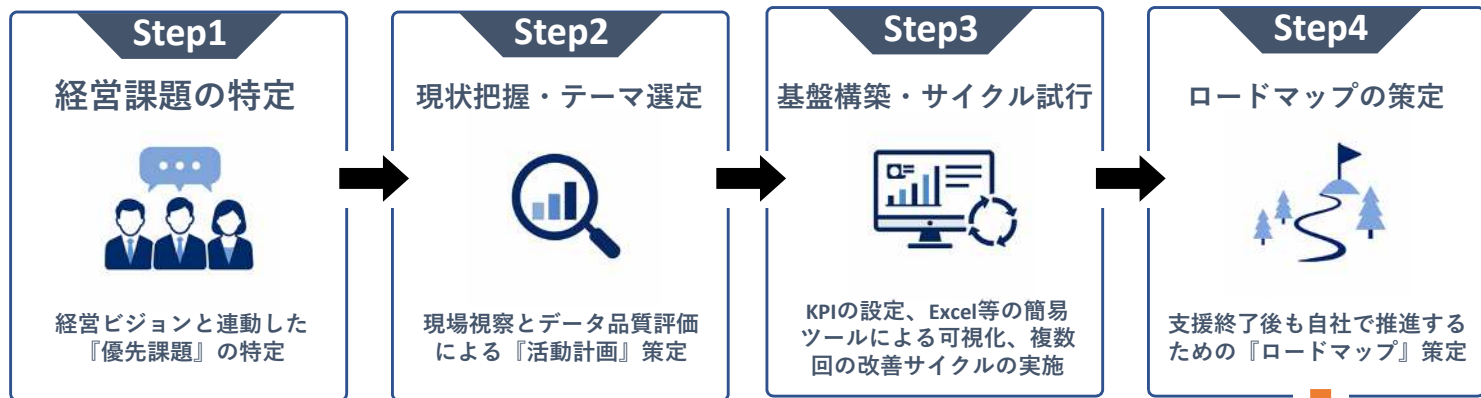
場所： 杜の街グレース 貸し会議室ホールE

定員： 30名程度

- 内容：
- 基調講演：既存データが活かされていないことで生じる「粗利流出」や「機会損失」、データ活用で組織が変わった成功・失敗事例など
 - ワークショップ：データ活用のフレームワークを用いた仮説検証型のワークを行い、思考力を養成。
 - 事業説明：支援内容、実施スケジュール、応募方法、選定基準などをわかりやすく説明します。



8ヶ月間の伴走支援プロセス（2026年8月～2027年3月）と事例報告会



データドリブン経営の5つの壁



見えない (データが散在) | 向き合わない (勤と経験を優先) | 実行できない (改善案が出ない) | 付いてこない (やらされ仕事感) | 足りない (型や知見の不足)

本事業では、これらの壁を現場伴走で一つずつ越えていきます。

2社による事例報告会

時期： 2027年3月頃

場所： 未定（岡山市内）

内容： 取組前の経営課題、活用したデータ、試行錯誤や失敗、現場や経営層を巻き込む工夫、改善効果 など

専門家チーム

<委託先> 株式会社日本総合研究所

戦略策定・データ分析/利活用・業務改善の専門家によるチームが現場に入り、変革に向けて強力にリードします。



支援企業選定のポイント（重視する点）

- 1. 経営層の「変革に対する熱意・コミットメント」
- 2. 経営層～現場を含めた部門横断の推進体制の有無
- 3. 課題の典型性（属人化や在庫/顧客管理等）
※地域への波及性



お問い合わせ

主催：岡山市産業観光局 商工部 産業振興課 担当：山本・宗田・藤本
 TEL：086-803-1329
 E-Mail：kougyoushinkou@city.okayama.jp

※本事業「データドリブン経営実践プロジェクト」は岡山市より委託を受け、(株)日本総合研究所が運営しています。